

会計大学院の閉校式の挨拶

2015年3月24日

星野 靖雄

会計大学院は2015年3月をもちまして最後の修了生20名が会計修士（専門職）を取得することにより、本日閉校式を迎えることになりました。2年目からの参加教員として8年間、基本科目、発展科目、応用・実践科目にわたり6科目を担当し、修士論文の副査として25編の修士論文の審査にかかわりました。また、会計大学院の専任教員であったことにより大学院経営学研究科博士課程の兼任の指導教員として論文博士2名、課程博士2名の計4名に博士（経営学）を7年間で授与できました。その内2名は博士論文を英文の単行本として出版しており、本日博士号を授与された1人も英文での博士論文を出版予定です。また、博士（経営学）はこれまでに3人の本学の名誉教授の先生方が最大3人の学生に対して長期にわたる指導により博士（経営学）を授与されたただけですので、当方にとっては大変に幸運なことであった感じています。さらに、本年度は本学の名古屋校舎で12か国からの100人を超える参加者の国際学会（PBFEM）を9月に主催でき、11月にはマレーシアにおける4工科大学連合学会（MUCET2014）での最優秀論文賞の受賞、今月3月9日には2015IEDRCソウル国際学会での基調講演（地域間、国家間での小売業の企業特性の研究）を行い、愛知大学の国際化に大きく貢献できたと自負しております。

今後は、会計大学院の機能は経営学研究科に受け継がれますので愛知大学大学院のさらなる発展を強く期待するものです。

乾杯の挨拶

さき程の修了式におきましては、20名の学生諸君が会計修士（専門職）の学位を授与されました。今後は、会計士事務所、税理士事務

をはじめ実社会で活躍されることと存じます。Noblesse Oblige（ノブレス・オブリージュ）という言葉があります。英語ではNoble Obligation、Nobility Obligesです。高い身分、資格には道徳上の義務を通じた社会的貢献が期待されるということであるといわれます。皆さんが取得された修士号にはこの言葉があてはまります。具体的な実例として杉原千畝を挙げることができます。かれは1900年生名古屋の平和小学校、瑞陵愛知大学の建学の精神は、世界文化と平和への貢献、国際的教養と視野をも持った人材、地域社会への貢献です。この精神を生かし生涯を通じ主体的な行動を行い、自らを発展させてください。

皆様方の今後の大発展を祈念し乾杯いたしたいと思います。

ご唱和ください。

乾杯。